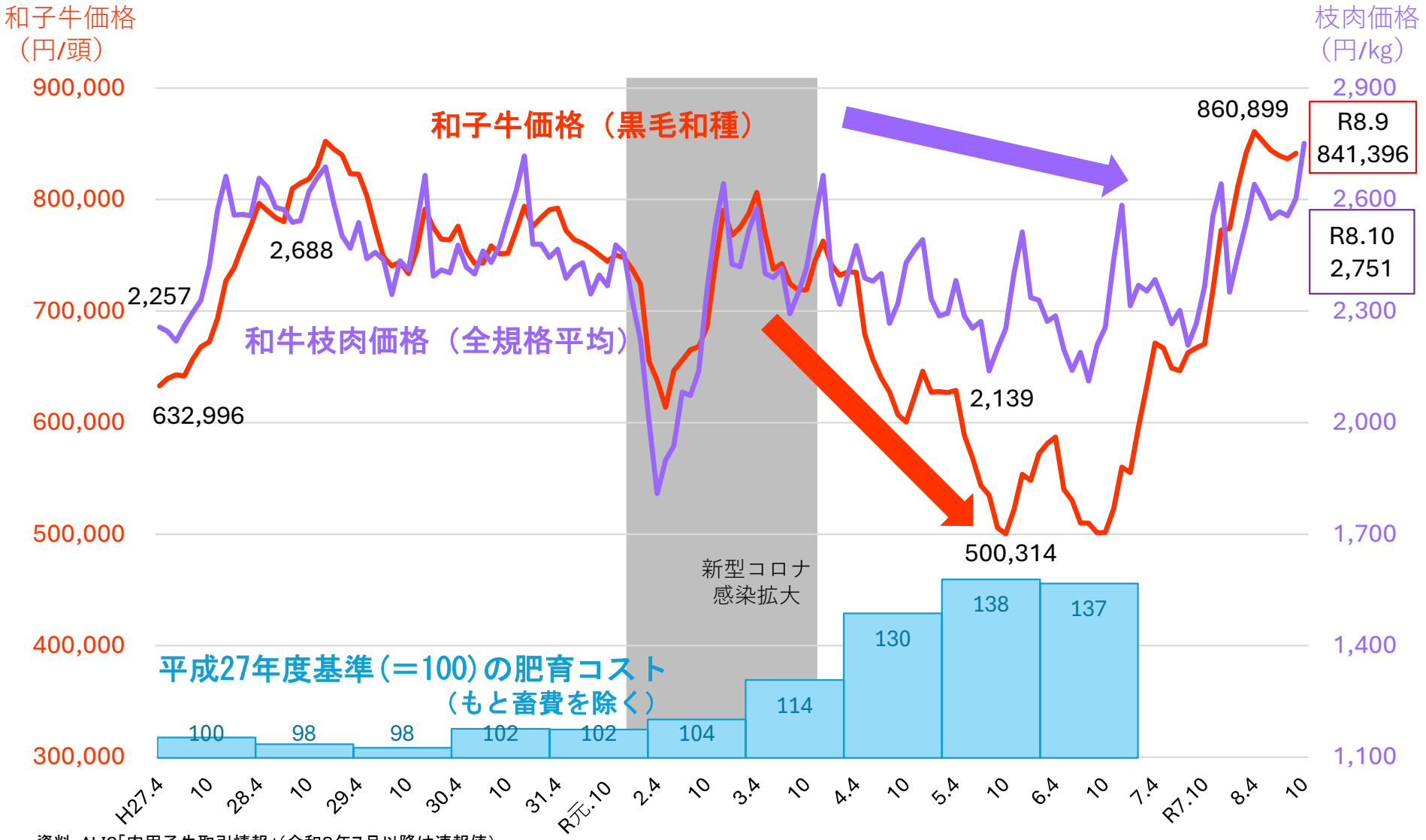
和牛肉の需給動向

令和８年１１月版

農林水産省畜産局食肉鶏卵課

和子牛取引価格と和牛枝肉価格の動向

●**和子牛価格と和牛枝肉価格の変動**には、**一定の連動性**が見られる。
●新型コロナウイルス感染症の拡大後、**和子牛価格、和牛枝肉価格はともに下落したが、直近は回復。**

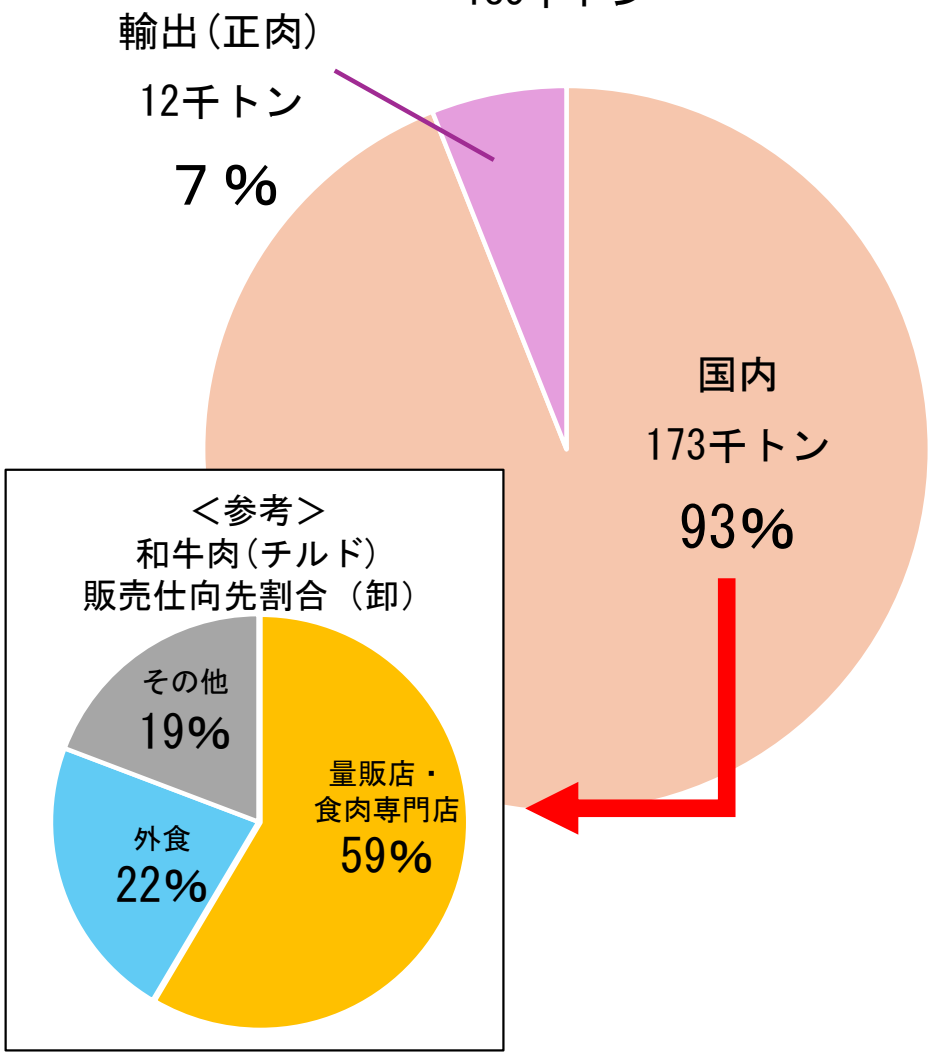


資料：ALIC「肉用子牛取引情報」（令和8年7月以降は速報値）
農林水産省「畜産物流通統計」（中央10市場計、令和8年10月は速報値（食肉鶏卵課調べ））
農林水産省「生産費統計」（去勢若齢肥育牛の支払利子・地代算入生産費からもと畜値を差し引き、平成27年度コストに対する増減率を算出、令和元年度以降は年次ベース）

和牛肉の仕向け先、実質賃金と牛肉家計購入量の動向

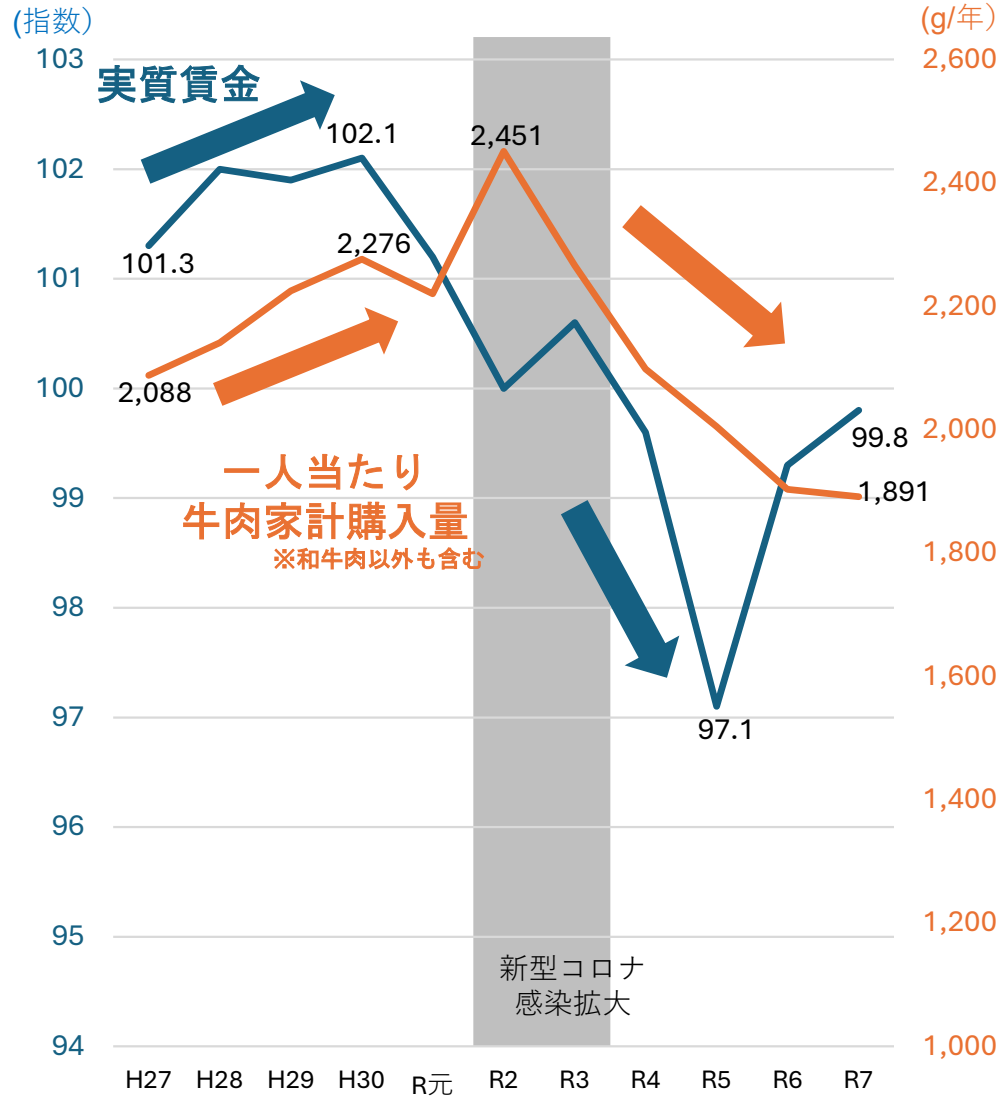
●和牛肉生産量のうち、**国内仕向けは93%**。国内仕向けのうち、**量販店等向けが59%**で最大。
●**実質賃金と一人当たり牛肉家計購入量の変動**には、**一定の連動性**が見られる。
●近年は**実質賃金の下落に伴い、一人あたり牛肉家計購入量も下落傾向**。

令和７年次　和牛肉生産量
185千トン



資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」
ALIC「食肉販売動向調査結果」（2024年度上半期）

実質賃金、一人当たり牛肉家計購入量

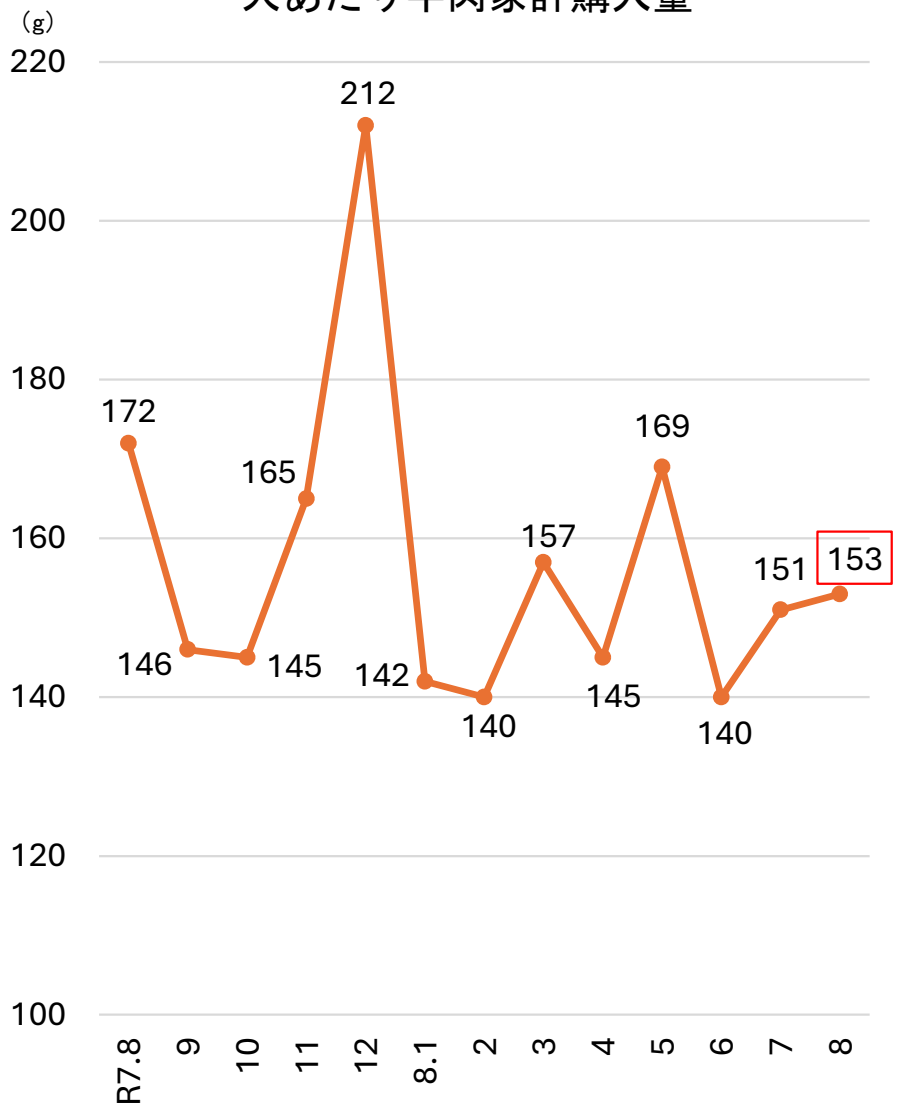


資料：厚生労働省「毎月勤労統計」全国調査、常時5人以上を雇用する事業所、現金給与総額、年次
総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数、年度

直近の牛肉の家計購入量等

●**一人当たり牛肉家計購入量**は、**年末年始需要のある12月に顕著な増加**が見られる。
　また**年度末からGW**にかけての時期や、**夏休み・お盆**の時期にも**小幅な増加**が見られる。
●都市別の牛肉消費は**西日本で多い傾向**があり、多い地域と少ない地域で**３倍程度の差**が見られる。

一人あたり牛肉家計購入量



資料：総務省「家計調査報告」1世帯当たり牛肉購入量÷1世帯当たり人数

都市別牛肉消費ランキング
（一人当たり、年間）

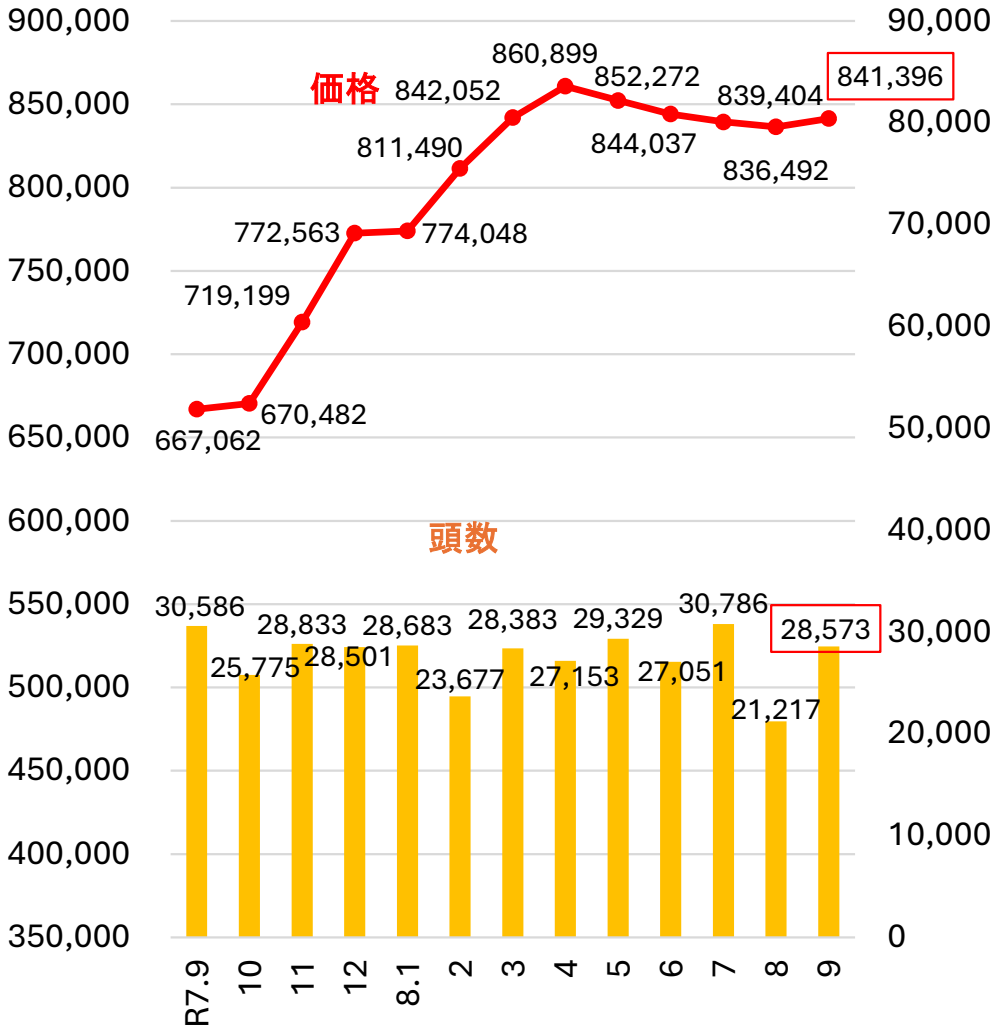
金額		数量	
京都市	13,184円	1 京都市	2,967g
和歌山市	12,640円	2 和歌山市	2,865g
神戸市	11,975円	3 北九州市	2,850g
堺市	11,854円	4 堺市	2,808g
奈良市	11,499円	5 山口市	2,769g
・	・	・	・
・	・	・	・
・	・	・	・
札幌市	4,179円	４８ 福島市	1,214g
福島市	3,921円	４９ 長野市	1,185g
前橋市	3,842円	５０ 前橋市	1,087g
盛岡市	3,583円	５１ 盛岡市	1,064g
新潟市	3,355円	５２ 新潟市	996g

資料：総務省「家計消費」を基に作成
注：都道府県庁所在市及び政令指定都市の計52都市における2023年～2025年の平均購入金額及び数量を、各都市の3年間の世帯人数の平均で除して算出。

直近の和子牛取引価格及び頭数、和牛枝肉価格

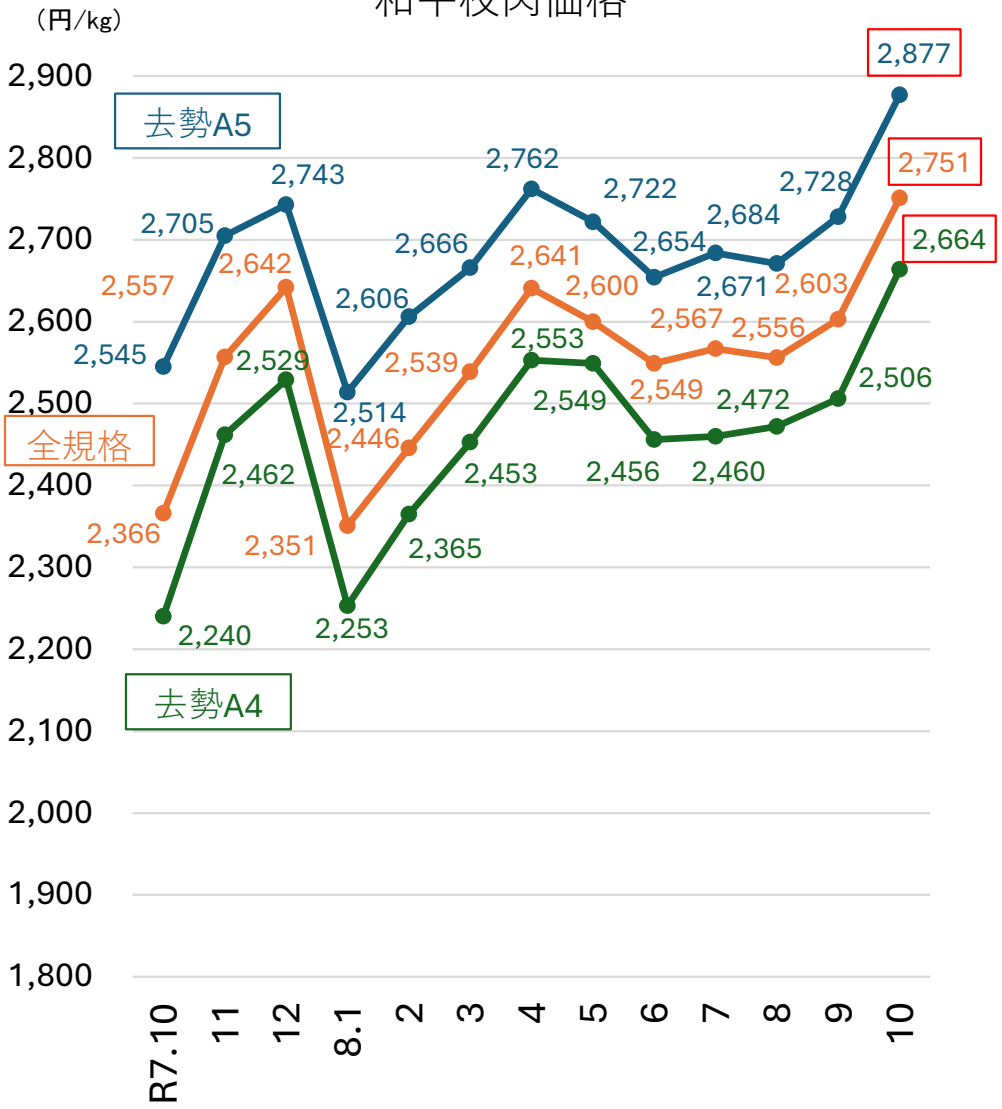
●**和子牛価格**は、最需要期である年末に出荷するもと畜となる**２～４月頃に最も引き合いが強まる傾向。**
●**和牛枝肉価格**は、年末年始需要に向けて、**11～12月頃に最も引き合いが強まる傾向。**

和子牛取引価格・頭数（黒毛和種）



資料：ALIC「肉用子牛取引情報」（令和8年7月以降は速報値）

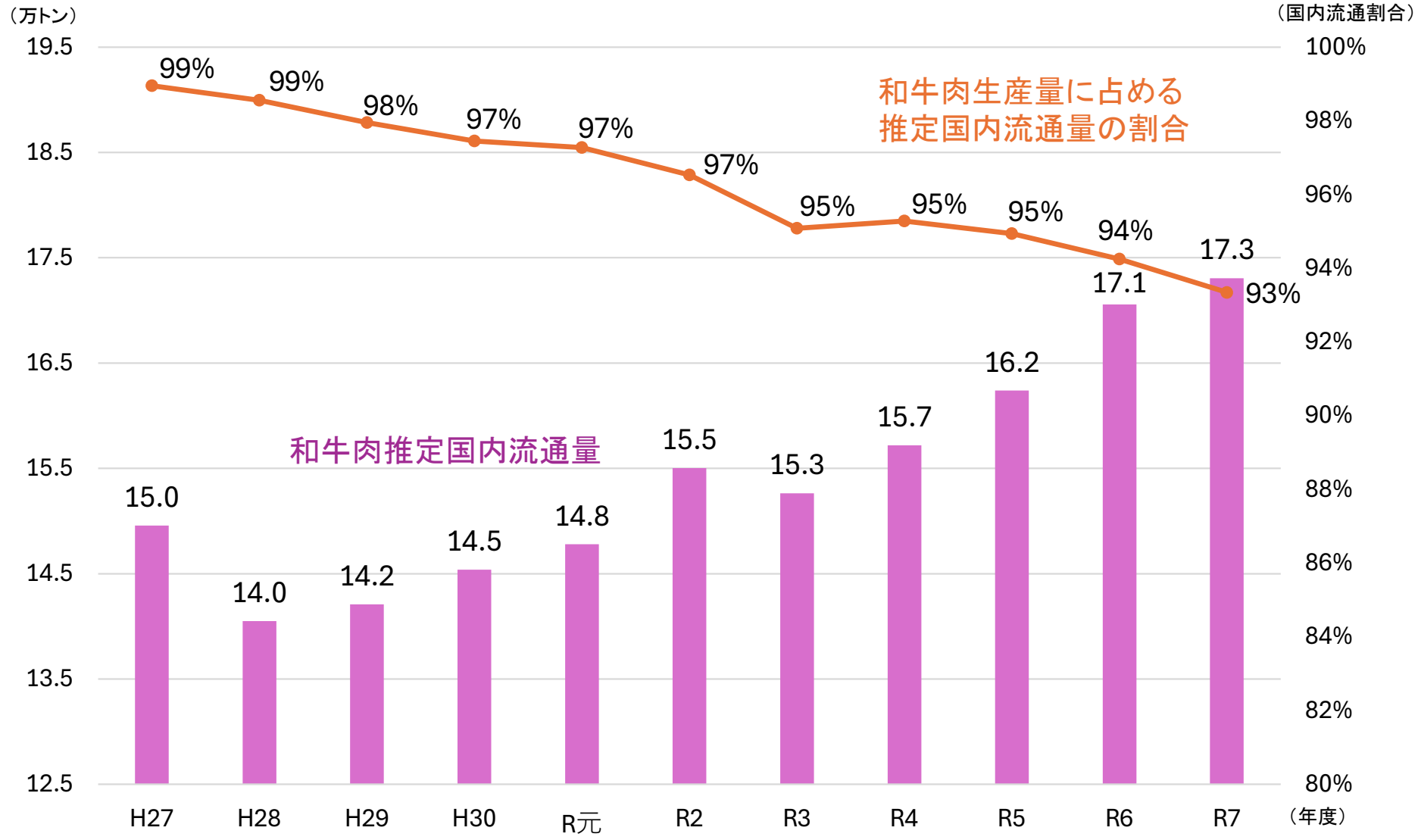
和牛枝肉価格



資料：農林水産省「畜産物流通統計」（中央10市場計）
令和8年10月は速報値（食肉鶏卵課調べ）

和牛肉の推定国内流通量の動向

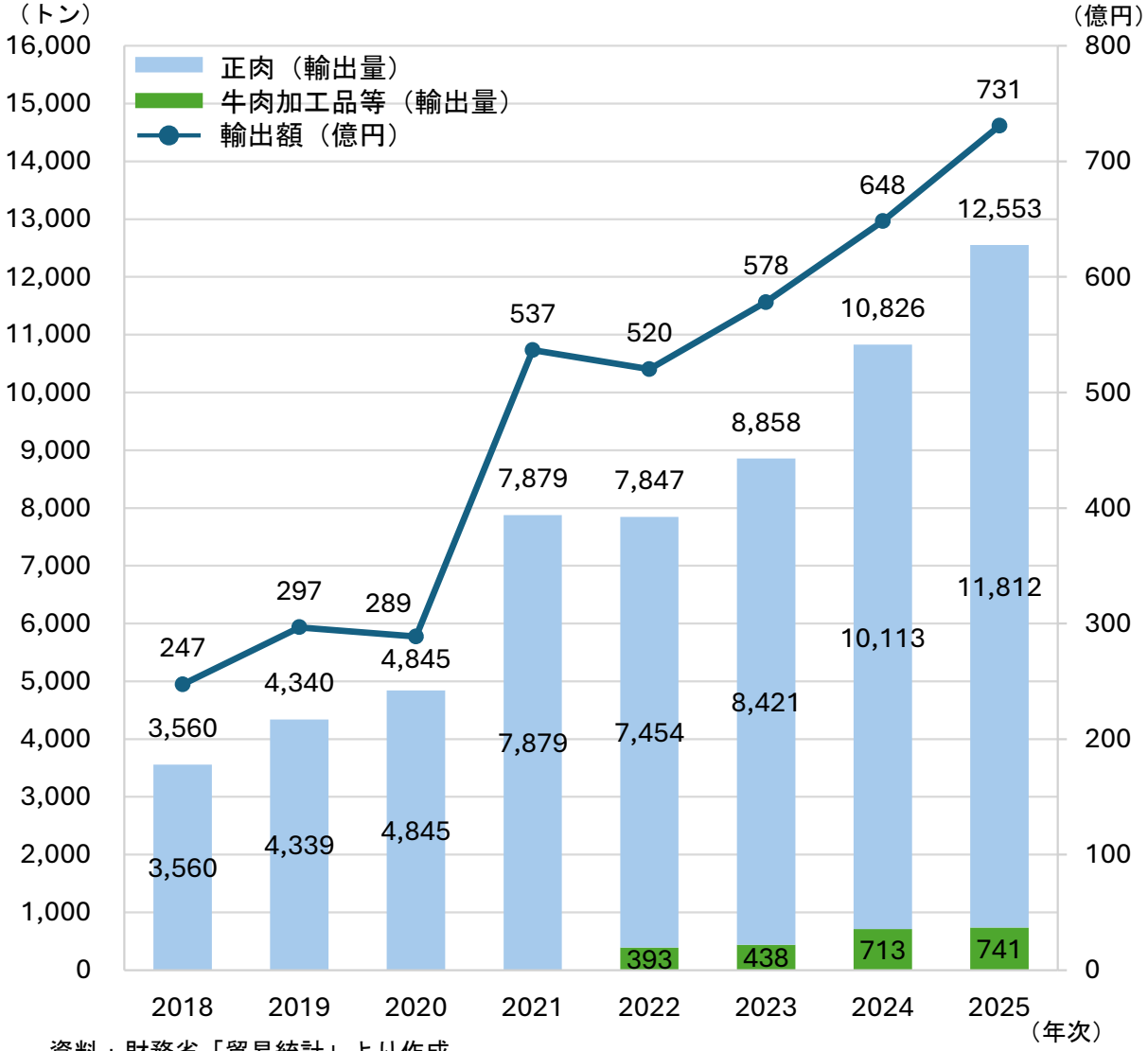
●和牛肉の**国内流通量は増加傾向**で推移。
●和牛肉生産量に占める推定国内流通量の割合は、輸出量の増加により、微減傾向。



※推定国内流通量＝生産量－輸出量
資料：農林水産省「畜産物流通統計」、財務省「貿易統計」より推計（部分肉ベース）

牛肉輸出の動向

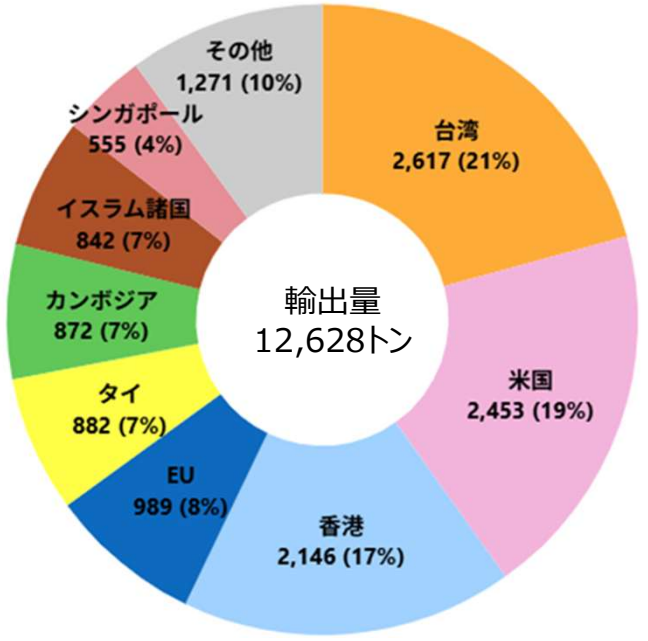
●**牛肉輸出量は増加傾向**で推移。2025(令和７)年次の輸出実績は、**輸出量は12,628トン（前年比117%）**。
●輸出先は、**台湾、米国、香港がそれぞれ約２割**を占める。
●輸出量全体に占める冷蔵牛肉の割合は約46%。またロイン系の割合は約43%。



資料：財務省「貿易統計」より作成
注：正肉、牛くず肉、加工品の合計、原表ベース。ただし、2021年以前は加工品を含んでいない。

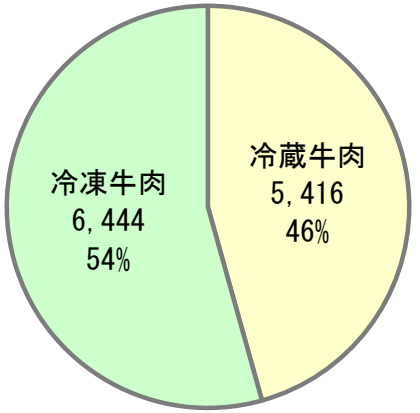
国・地域別

（2025年次、単位:トン）

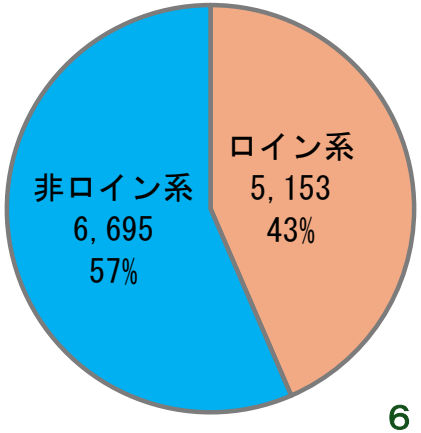


注:正肉、くず肉、加工品の合計、原表ベース。

冷蔵冷凍別



ロイン・非ロイン系別



直近の和牛肉生産量、国産牛肉在庫量、牛肉輸出量

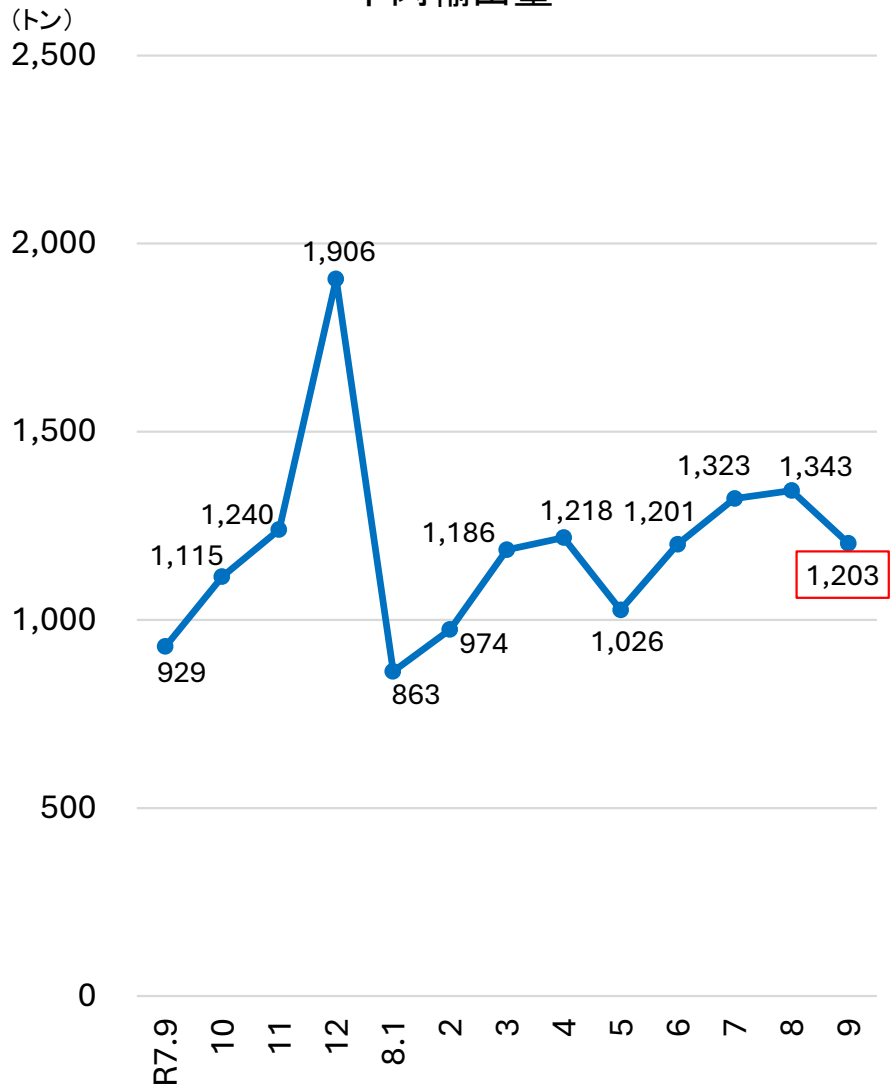
●**国内生産量**は、**年末需要に向けた11月に最も増加**し、**年度末**や**夏休み・お盆**の時期にも増加が見られる。
●**牛肉輸出**は、**年間を通じて安定した取引**が行われているが、
12月は、次年分の米国低関税枠の早期消化に備え、枠の活用に向けた輸出量の増加が見られる。

和牛肉生産量及び国産牛肉在庫量



資料：農林水産省「畜産物流通統計」ALIC「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査※）」
※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査。
注：部分肉ベース

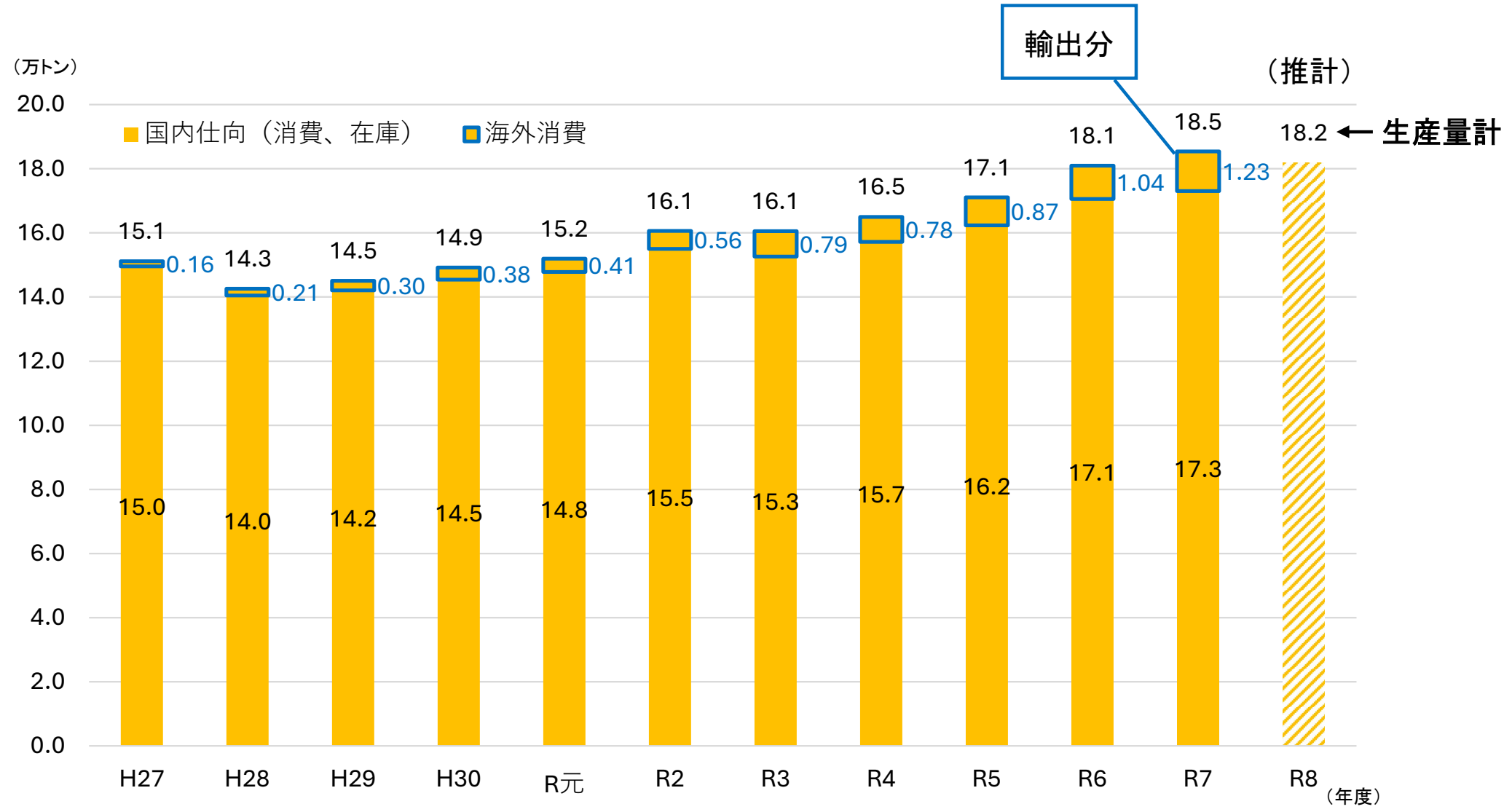
牛肉輸出量



資料：財務省「貿易統計」

和牛肉生産量の推移と当面の見通し

●**和牛肉生産量は増加傾向**で推移。
●和子牛出生頭数等から当面の生産量を推計すると、**令和８年度は18万ﾄﾝ程度となる見通し。**

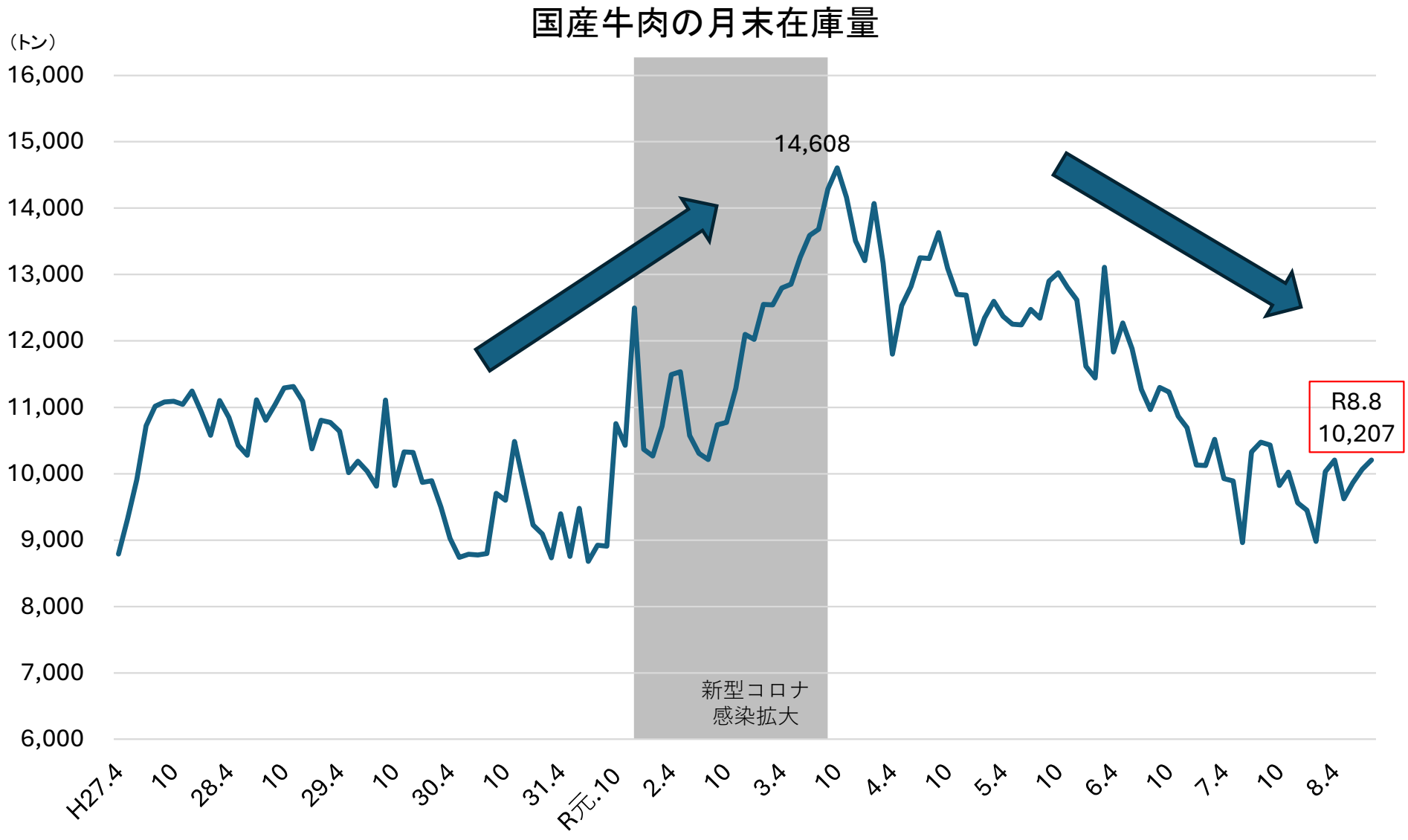


資料：農林水産省「畜産物流通統計」（H27～R7）、財務省「貿易統計」、家畜改良センター「届け出情報の統計」、
食肉鶏卵課推計（R8）
※部分肉ベース

【 R8の推計方法】
和牛の出生頭数、と畜頭数、枝肉生産量の実績等から、生産動向を分析して推計。

【参考１】国産牛肉の在庫量の動向

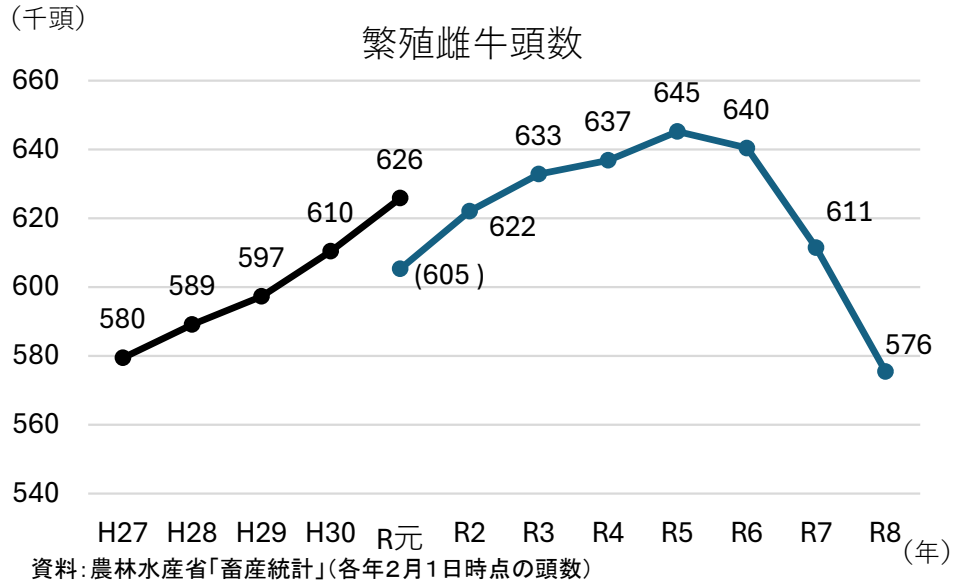
●**国産牛肉の在庫量**は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期に増加し、その後、**減少傾向で推移**。
●直近の在庫量は、新型コロナウイルス感染症感染拡大時期以前の水準程度まで低下。



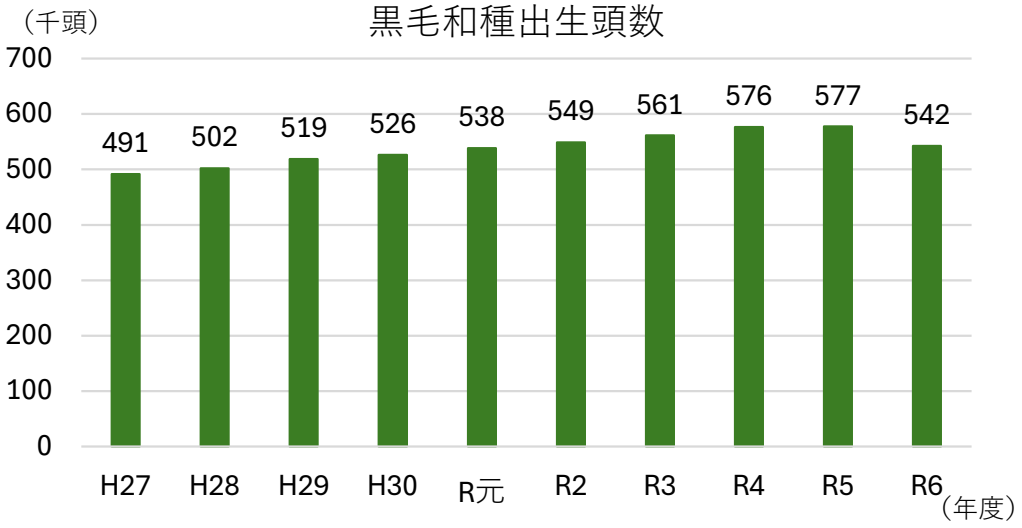
資料：ALIC「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査）」
※ALICが日本冷蔵倉庫協会に委託し、全国の主要な冷蔵倉庫業者から毎月の月末の在庫数量を調査。

【参考２】繁殖雌牛頭数、繁殖仕向割合、和子牛出生頭数の動向

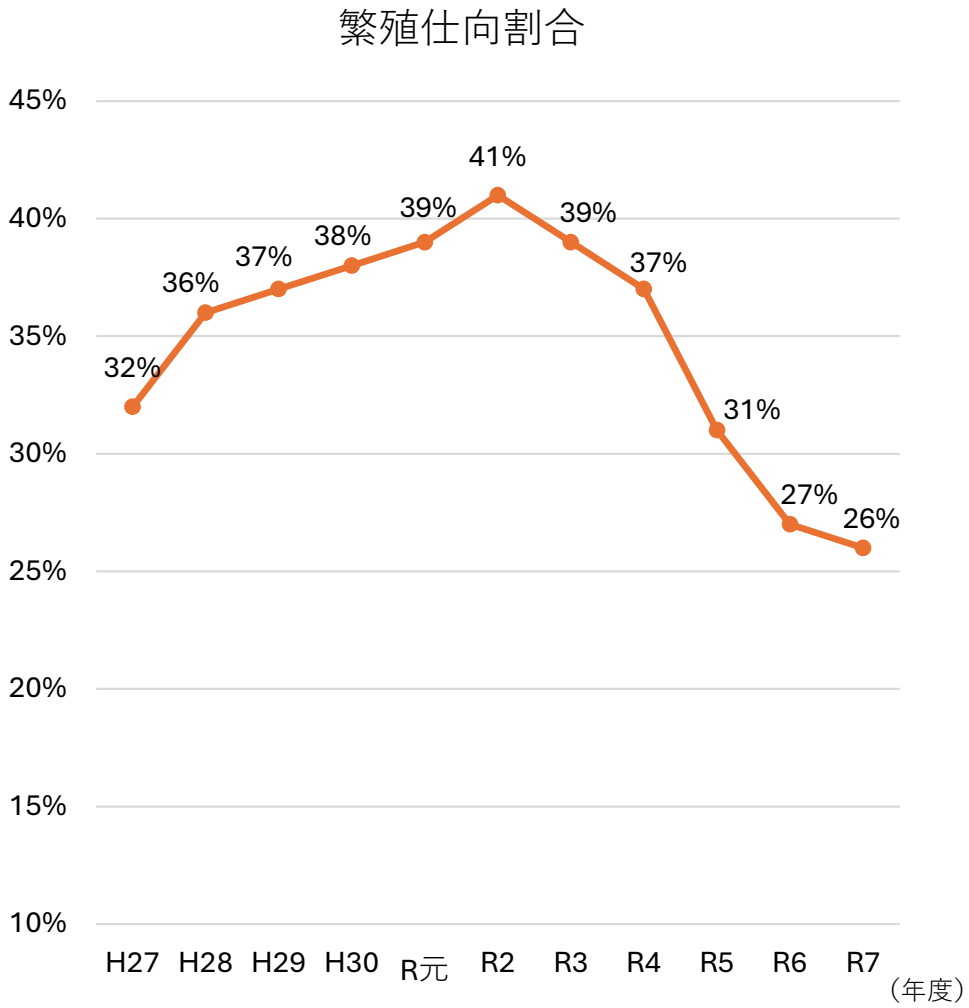
●和子牛生産の源となる**繁殖雌牛頭数は、**令和５年まで増加傾向で推移してきたが、**令和６年から減少傾向。**
●17カ月齢時点での**雌牛の繁殖仕向割合は、令和２年度をピークに下落傾向。**
●黒毛和種出生頭数は、近年、繁殖雌牛頭数の増加等に伴い、**増加傾向で推移してきたが、繁殖雌牛頭数が減少に転じたこと等により、令和６年度は前年度から減少。**



資料：農林水産省「畜産統計」（各年２月１日時点の頭数）
※R2年より統計手法が変更された。（R1年は変更後の統計手法による頭数を参考値として併記）



資料：家畜改良センター「届出情報の統計」



注：牛マルキンで17月齢時点で肥育牛に登録された頭数をもとに、繁殖仕向雌頭数（雄：雌の出生割合が51：49として肥育仕向雄頭数から同時期の雌頭数を推計し、これから肥育仕向雌頭数を引いたもの）を肥育仕向雌頭数と繁殖仕向雌頭数の合計で除して算出。

和牛肉の需給動向（まとめ）

消費	令和8年6月	7月	8月
一人あたり牛肉家計購入量(g)	140 （92%）	151 （99%）	153 （89%）

生産	令和8年7月	8月	9月
肉用子牛（黒毛和種）取引頭数(頭)	30,786 （93%）	21,217 （93%）	28,573 （93%）
価格(円)	839,404 （130%）	836,492 （126%）	841,396 （126%）
	令和8年7月	8月	9月
和牛肉生産量(トン)	17,606 （99%）	12,701 （101%）	14,368 （96%）
	令和8年8月	9月	10月
和牛枝肉卸売価格（全規格）(円/kg)	2,556 （116%）	2,603 （115%）	2,751 （116%）
	令和8年6月	7月	8月
国産牛肉在庫量(トン)	9,865 （110%）	10,065 （97%）	10,207 （97%）

輸出	令和8年7月	8月	9月
国産牛肉輸出量(トン)	1,323 （127%）	1,343 （149%）	1,203 （130%）

資料：総務省「家計消費」、ALIC「肉用子牛取引情報」「牛肉の推定期末在庫（食肉等保管状況調査）」、農林水産省「食肉流通統計」、財務省「貿易統計」
注：（）内は対前年同月比
　肉用子牛取引価格及び頭数の令和8年7月以降は速報値
　和牛枝肉卸売価格の令和8年10月は速報値（食肉鶏卵課調べ）